

青森県現代俳句協会会報

第46回青森県俳句懇話会十和田大会

標記大会が7月29日(日)富士屋グランドホテルで午前10時から開催されました。当大会は平成28年から本協会が後援したことから青森県現代俳句協会賞が設けられています。その概要を本会員を中心に紹介します。

当大会への投句者は149名で、当日参加者は107名でした。

宿題はA夏季雑詠とB夏季雑詠の二題でした。その結果を各選者の天位・地位・人位について会員のみをご紹介します。

A夏季雑詠

齊藤 泥雪選【天位】

はにかみも一つの津軽太宰の忌

敦賀 恵子選【人位】

蟻一匹お悔やみ欄を素通りす

B夏季雑詠

奥田 卓司選【地位】

さくらんぼ見つけて早きあんよかな

田村 正義選【天位】

新刊を開けばばきと夏立ちぬ

高森ましら選【天位】

白髪太郎お岩木山を目指しけり

白髪太郎お岩木山を目指しけり

次に席題の結果を各選者の天位・地位・人位・秀逸について会員のみをご紹介します。

席題「網戸」

草野 力丸選【天位】

網戸入れ安産の報待ちにけり

網戸入れ安産の報待ちにけり

極秘事網戸を抜けて骨がない

極秘事網戸を抜けて骨がない

網戸して天地無用の寝相たる

網戸して天地無用の寝相たる

網戸より千切れて風の入りけり 鳴海 顔回
西谷 是空選【地位】

網戸して天地無用の寝相たる 泉 風信子

席題「蚊」

吉田千嘉子選【人位】

一年生の自由研究蚊が主役

坂本 幽弦選【天位】

蚊柱やどこにも記憶なき翅音

席題「舌 詠み込み」

日野口 晃選【天位】

西瓜食ふ舌にピアスの少年も

最後に総合順位(会員のみ)と本協会賞をご紹介します。

○総合第4位 16点 中村しおん

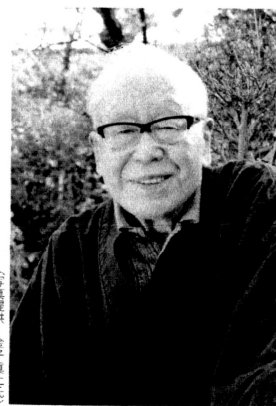
○総合第10位 11点 泉 風信子

○宿題第2位 13点 吉田千嘉子



日野口実行委員長のあいさつ

寄稿・金子兜太先生お別れ会に出席して



(写真提供：生駒士氏)

平成三十年
六月二十二日
(金) 東京都
有楽町朝日ホ
ール午前十一
時三〇分〜午
後一時三〇分
頃まで

会場は、六三〇席ほぼ満席であった。

◎会式・黙祷

全員による黙とうに続き、現代俳句協会特別顧問宇多喜代子氏による開会の辞。

◎生前のお姿・ビデオ上映

現代俳句協会会長中村和弘氏による金子家との打ち合わせの経過によって兜太先生にお別れしたい人たちに無宗教による献花礼拝にして頂きたいとの希望により、今日のお別れ会とした旨の報告がありました。

続いて現代俳句協会創立七十周年記念・第五十四回現代俳句全国大会の式典・祝賀会で感謝状授与者を代表して金子兜太先生の挨拶と祝賀会における秩父音頭を唄った映像がスクリーンに映し出された。中村和弘氏は、式典・祝賀会場が割れんばかりの拍手喝采の渦であったとの報告がありました。

◎兜太の代表句奉読

海程同人田中亜美氏による二十句が奉読された。

◎お別れの言葉要旨

発起人代表・現代俳句協会特別顧問宮坂静生氏より金子兜太さんが逝去されてから四カ月経つ。信じがたい思いである。ご子息眞土(まっつち)さんのご意見お訊ねしたところ、俳人の兜太がどんなであるかを知らない人でも『平和の俳句』や『新俳句』の選者などなく『平和の俳句』に親しみを感じている方がいる。お別れ会を知り、一本のお花を捧げたい。そんな方々が参加

できるようなステージにして頂きたいとの事、私は深く共感した。

現代俳句協会創立七十周年記念大会催し、会長を十七年間務められ特別功労を受けられ、その折に唄われた秩父音頭、父の伊昔紅（いせきこう）が選んだ歌詞『ハアーエ鳥も渡るかあの山越えて鳥も渡るかあの山越えて（コラシヨ）』マイクに向かわれる温顔には九十八歳の生涯の滋味が溢れていた。

平成二十七年朝日賞受賞の折のスピーチのときに『存在者と言うものの魅力を俳句に持ち込みたい』存在者とは「そのまま」生きている人間。素直にものを言う人たち。存在者として魅力のない者はダメだ。

トラク島の戦場から帰国後、戦後社会で兜太と第一線を走り続けた意欲に燃えた青年俳人たちが思い出される。代表句をあげる。

夏の山国母いてわれを与太と言う

水脈（みお）の果て炎天の墓碑を置きて去る
彎曲し火傷（かしよう）し爆心地のマラソン

改めて兜太の人氣は俳人の枠を超えて、国民詩人とも呼びたいほどである。

これから俳人金子兜太とはなんであつたか、その検証が始まる。そんな期待を持ちながら、兜太像を振り返り、私見を二つ述べてみたい。

一つ目は『あなたによって俳句史は生きた人間の心の表現史に書き換えられた』とのささやかな感慨である。

二つ目は秩父の『山国の田舎っぺ』の兜太さんが土に培われた『美の型のようなもの』に俳句表現の源があると気付かされたことである。

以上二点への着眼こそ、大胆かつ繊細な気配りの詩人、われらが人間金子兜太がわれわれに遺してくださった、なによりも素晴らしい大業であつたのではないだろうか。感謝をこめてお別れのことばとさせていただきます。

◎金子家よりのご挨拶

御子息・金子真土（まつち）さんから。

◎発起人よりの御礼要旨

俳誌「藍生」主宰黒田杏子（くろだももこ）

銀行員
朝より堂々
す鳥賊のど

水脈の果
炎天の墓碑
を置きて去る

梅咲いて
屋中に青鯨
が来ている

よく眠る
夢の枯野
が青むまで

略歴

大正8年（一九一九）9月23日出生（埼玉県）

昭和12年（一九三七）旧制水戸高等学校文科乙類入学

昭和16年（一九四二）東京帝国大学経済学部入学

昭和18年（一九四三）繰上げ卒業し日銀入行、直後海軍へ

昭和19年（一九四四）海軍主計中尉としてトラク島に赴任

昭和21年（一九四六）戦後捕虜として米軍基地建設に従事、

11月同島からの最終復員船で帰国

昭和22年（一九四七）日銀復職、結婚

昭和31年（一九五六）第1句集『少年』現代俳句協会賞受賞

昭和37年（一九六二）同人誌『海程』創刊（後、結社誌に）

昭和49年（一九七四）日銀定年退職

昭和58年（一九八三）現代俳句協会会長就任（〜平成12年迄）

平成12年（二〇〇〇）現代俳句協会名誉会長

平成13年（二〇〇一）現代俳句大賞受賞

平成14年（二〇〇二）第13句集『東国抄』蛇笏賞受賞

平成17年（二〇〇五）日本芸術院会員に叙さる

平成20年（二〇〇八）文化功労者に叙さる

平成29年（二〇一七）現代俳句協会特別功労賞

平成30年（二〇一八）2月20日死去（満98歳）

氏がお礼の言葉。

秋の吟行互選俳句大会のご案内

- 日時：平成30年10月27日（土）
10:00～15:00（予定）
- 場所：立佞武多の館 4階会議室
五所川原市大町506-10
- 集合場所：五所川原市中央公民館
正面玄関前（10時集合）
- 参加費：千円／人（昼食費含む）
- 申込期限：10月20日（土）
- 参加申込：事務局まで
千葉（☎080-6027-3825）
（FAX017-741-9296）
大瀬（☎090-3645-1510）
（FAX0172-87-1953）

発行所 青森県現代俳句協会
発行人 泉 風信子

金子兜太先生は現代俳句協会名誉会長であり、私は俳人協会と異なる生い立ちでありますがいづつも講演やら座談会などに一緒にさせていただきます。そのつど『荒凡夫』『存在者』『平和であること』などを教えていただいた。特に印象に残ったのは、平成二十八年八月二十一日の第七十回青森県俳句大会での特別選者をされ、私も一緒にさせていただきました。その懇親会での秩父音頭を唄ったことでもあります。兜太先生の唄ったことにより青森の方々が津軽の民謡やら牛追い唄を唄い大変賑やかに過ごさせていただき、二次会三次会まで続きました。よいおもいであります。

今日の兜太先生のお別れの会にご出席いただいた皆様に発起人として御礼申しあげます。

◎拝礼および献花

元海程同人（海原・黒艦隊） 同人後藤岑生記